

視聴覚教育

No. 22

発行日

61.5.23

発行

岡崎市AVL

編集

広報委員会

情報処理能力を育てよう

視聴覚教育部長 野村 鉦吉

視聴覚教育は、従来の学習を効果的に補助する手段として考えるだけでは足りない。通信とコンピュータが結合された高度情報化社会では、機器を通信や生活の手段として創造的に、新しい考えや新製品を生み出すことのできる人間が求められる。

生産のロボット化による人間の排除と高齢化社会による就業の困難が予想される中で、今後人間の生き方が鋭く問い直されている。自己教育力の無い者は生きていきにくい学習は学校だけではない。日々刻々増大する情報を理解し、選択処理し、利用するには、生涯学習をしていないと

時代の発達についていけなくて駄目になる。

自己教育力も、生涯教育も、基礎基本の学力の上に、主体的に学ぶ意志、態度、技能を身につける必要がある。

知識の量より、情報を主体的に処理する能力、情報処理能力の方が生きる力となる。教育されるべき内容である。

教育の実質となるものを誤ると教育の荒唐が生まれる。実社会に生きて役立つ自覚があれば、無気力、無関心、無感動人間は生まれない。個性と能力に合った問題解決的学習をさせ、情報処理能力を育てることこそ、今日の急務である。日本の前途の明暗を分ける創造性の育成もこれなくしてはできない。みんな情報処理能力の育成に取り組もう。

昭和六十一年度 視聴覚関係

友会種々十八△云、研修△云のお告知りせ

- ・全国放送教育特別研究協議会 7月28日～30日 東京都
- ・学校視聴覚教育全国大会 11月7日～8日 北九州市
- ・放送教育研究会全国大会 11月13日～14日 高知市



研究九方針と組織決まる

《今年度の研究主題》

視聴覚教材・機材を生かした授業のあり方を追及しよう

《研究の重点》

- (一) パソコン機能の理解とその活用法の研究
- (二) 学習意欲と視聴能力を高める放送学習の実践
- (三) 授業で生かせる自作視聴覚教材の制作とその活用
- (四) 視聴覚室やアナライザー教室の総合的な活用
- (五) 校内放送における双方向システム活用法の研究

《組織》

部長 野村 鉦吉 (常磐東小長)

部長 山田 利一 (美川中長)

部長 河合 憲一 (藤川小長)

指導員 牧野 伊佐夫

世話係 江坂 良夫 (岩津小)

桑木 富士子 (大樹寺小)

高木 和広 (美川中)

市橋 章男 (城北中)

ライブラリー職員 宮田 典彦

山内 薫

運営委員

岡田 金二 (常磐小)

小出 明 (愛宕小)

後藤 晶基 (矢北中)

杉浦 修 (葵中)

原田 平 (六ツ美中)

内田 義和 (甲山中)

小川 規博 (竜海中)

ライブラリーだより

ライブラリー 太陽の城で活動始まる

年度末の移転でご迷惑をおかけしましたが、四月より、太陽の城一Fで活動しています。事務室は従来よりも広く、駐車場(約六十台太陽の城と兼用)も広いので、多くのご利用をお願いします。なお開館・休館日は従来どおり。☎は25-3000に変更。

ビデオのダビング・サービースとは？ 映画の配達

自作ビデオ等のダビングを行っています。学校の

テープの背に番組名・校名を書いて送付して下さい。

出来あがり後、返送いたします。(一番組一本のテ

ープにして下さい。)また、16ミリ映画フィルムは

毎週火曜日に学校へ配達を、

次週の月曜日に回収にうかが

います。必ず電話で予約を。

詳しくは視聴覚主任まで。

